

湯山地区タウンミーティング（要約）

テーマ：湯山地区のまちづくりについて

令和7年4月18日（金曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は週末の金曜日ということで、何かとお忙しかったのではないかなと思いますけれども、このようにお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。また、このタウンミーティングの開催にあたりましては、湯山地区まちづくり協議会の会長さん、そして、湯山公民館の館長さんほか、地域の役員の皆さんのお力添えをいただきました。本当にありがとうございます。さて、この松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から開催しています。まず、1期目、松山市は全部で41地区に分かれます。旧の松山市、旧の北条市、旧の中島町、合わせて41地区に分かれますけれども、地区ごとに開催をさせていただいて、41地区を1期目で2巡りさせていただきました。2期目からは、地域別だけでなく、世代別のタウンミーティング、職業別のタウンミーティングもさせていただいています。職業別というと、例えば、農業をしていらっしゃる方々に集まっていたらいいのタウンミーティングですとか、商店街の方々に集まっていたらいいのタウンミーティングですとか、例えば、コロナがありました、コロナで経済が大変影響を受けているときには、経済の実態をよく知っている金融機関の方々に集まっていたらいいのタウンミーティングなどをいたしました。また、世代別のタウンミーティング、今日も小学生さん来られていますけれども、小学生、中学生は、将来の松山を担います。小学生、中学生に集まっていたらいいのタウンミーティングですとか、高校生、大学生、専門学校生に集まっていたらいいのタウンミーティングですとか、子育て世代に集まっていたらいい、また、我々の先輩、シルバー世代の方々に集まっていたらいいのタウンミーティング、いろんな角度から皆さんの声を聞かせていただいています。3期目に入ってから、タウンミーティングに参加して、市の取り組みがよく分って良かった、そんな声をいただきますので、実際に、松山市役所の現場で汗をかいている職員が、市民の皆さんの生活に役立つ情報をお届けする広報タイムを設けています。今、4期目に入りまして、今日のタウンミーティングで通算143回目になります。いただいたご意見に対しては、できるだけこの場でお答えをして帰ります。ただ、財政的によく考えなければいけないものですとか、国と関係する案件ですとか、愛媛県と関係する案件、そういったものをいい加減な返事をして帰るわけにはいかないので、一旦持ち帰らせていただいて、1カ月をめぐり、必ず皆さんにお返事をするというのが、やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしない、松山市のタウンミーティングの特徴でございます。今日も、皆さんと良い意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 テーマの「住み続けたい魅力あるまちへ」とは、ちょっと違うんですけども、私が、もう70歳もはるかに超えているんですけども、7～8年前に、広報まつやまで、

道後温泉の65歳以上やったと思うんですけれども、200円で入れるという話を読んで、これはええなと思って、私の友達と話して、それええやん、でも、どないしたらいいか分からへんからって言って、電話して聞いたら、支所に行って書類を書いて、1カ月ぐらいかかったら送ってきたんですよ、なんか割引のあれを。それで実際に行こうかと思って、1回は行ったんですよ。上の方のモータープール（駐車場）に停めて。温泉が200円で半額で入れるから入って、2人で帰ろうと思ったら、年寄り同士やから、かなり長く入りますよね。モータープールで千円以上も取られました。普通の温泉やったら、いつも行く温泉は、400円で年寄りは入れるので、駐車場は当然ただです。申し込みについても、その当時はまだマイナンバーカードなんか無かったんですよ、実際に。申し込んで1カ月かかるっていうのが手間やなと思っていました。今はマイナンバーカードがありますよね。だから、そういうはがきみたいなものを、いちいち持って行って、紙をとってというのは、なんかちょっと古いなと思って。マイナンバーカードは顔写真も付いてますので、何かついでがあつて行ったときに、ちょこっと入って、さっと帰れるというふうにした方が、効率が非常にいいんじゃないかと思うんですよ。例えば、いちいち申し込んでも、送られてくるのを待って、その紙を落としてしまったら終わりですからね。だから、とりあえず今、ほとんどの方がマイナンバーカードを持っておられますので、マイナンバーカードで入れると非常にいいんじゃないかなというのが、私の意見です。

【市民部長】 そうですね、確かに、紙は無くすとおしまい、というところはあるかもしれませんが。マイナンバーカードについても、今、8割ほどの方が持つようになられましたので、オンラインでできる申し込みなどの手続きを、少しずつこれから増やしていこうかという段階ではあります。

【男性】 オンラインでやり取りするのは、結構、年寄りは、私もだいぶギリギリなんですよ。私以上の年齢になると、スマホでのやり取りが、ちょっとできないんですよ。だから、マイナンバーカードがあれば、松山市に在住の方で、65歳以上の方は、マイナンバーカードがあれば半額で入れますよっていう制度になると、非常に年寄りとしてはいいんです。難しいんですよ、オンラインでやり取りするパソコンとかね。私の世代でもギリギリなんですよ。ただマイナンバーカードを提示すれば、200円で入れますよっていうのが、一番ベターなんですよ。

【市民部長】 ご住所とかお名前が、それを見て分かるから、ということですかね。なるほど。そういうご提案があったということで、担当課には伝えさせていただきたいと思います。やり方をいろいろ研究していければと思います。マイナンバーカードより、もしかしたら便利なやり方もあるかもしれませんので、その辺りも考えさせてください。ありがとうございます。

【男性】 湯山中学校のPTA会長をしています。よろしくお願いいたします。先ほど野志市長の方からご説明がありました、湯山地区についての取り組み、私個人のことを言います

と、実は農業に従事して、柑橘を作っております。鳥獣被害等も非常に苦労しているのですが、そういう中で、何とか柑橘王国として頑張っていきたいなと思うところなんですけれども、今日はちょっとその話じゃなくて、中学校のPTAの会長としてなんですが。先ほどの話にありました、湯の山団地から瀧見（たきみ）橋の方に向けて下りる道についてです。特に湯山地区については、自転車通学を中学生はしております。これは私の身内話でお恥ずかしい限りなんですけど、実は、私どもの娘も、何度も自転車で転んでおりまして、娘がどんくさいと言われたらそれまでなんですけれども、何度もそういう怪我をした経験があります。帰りは基本的には上りなので、歩道を整備していただいたところもありまして、それほど問題ないのかなと、使いやすくなったんじゃないかなと思っています。やっぱり行きが下り坂で、スピードも出るところで、特に左端、あそこの県道辺りについては、片側がのり面になっております。たくさん幅があると、また対策もしやすいんでしょうけど、今の現状で、なかなか難しいのは重々承知の上でなんですけど、二輪車という言い方の方がいいのかもしれないですけど、自転車が安全に通学できるような対策、特に湯山地区は、市内においても多少珍しい地域ではないかなと思っています。車との分離であったり、何らかそれが目に見えて分かるような、市内の方で自転車専用道路があるところもあると思うんですけれども。それがあそこの道で適切かどうかは、私も分からないんですけど。そういう道路の専門の方のご意見を伺えたらと思います。先ほどお話がありましたが、そこが県道であることは私も承知していますが、湯山の子どものためにとということで、市の方からも、県の方に掛け合っていただくとか、そういうことをお願いできたらと思っています。

【市長】 私の方からご説明をいたします。私は家が安城寺で、おじいさんとおばあさんのところが平井なんですよね。ですから、この道はよく通るということになります。友人も湯の山に住んでいます。この県道を自転車で通学している方、高校生とかをよく見かけて、壁の方から草が伸びてるもんだから、自転車が草を避けようとするので車道の方に出る、みたいなお話は聞いていました。ですので、本当に、1回目のタウンミーティングのときから、この辺の通学路の対策はとても大事だなと。また、湯の山の方から来て、川沿いのこちらの道路を自転車で通っていかれますよね。あれもよく知っていましたので、やはり、様々な対策が必要なんだろうなというのを感じていました。まず、昔でいうと平成24年に、京都の亀岡市で、一晩中車を運転していた若い人の車が、通学中の小学生の列に突っ込んで、死亡事故が起こったことがありました。そういう痛ましい事故が起こらないように、松山市では、国の人も、県の人も来てください、もちろん、先生もPTAも来てください、みんなで緊急点検しましょうっていうのをやったんです。それを平成24年、5年後の平成29年にもやって、令和3年にもやって、重ねてやっています。今の通学路ですが、今まで762カ所、対策が必要だねっていうところが出てきて、今まで3月末までに735カ所の対策を終わらせています。できるだけ分かりやすく話そうと思います。よくあるのが、市長、ガードレール作ってよ、ガードレールを作ってくれたら、歩く人を守れるんじゃないかって言われることがあります。中には、道路の横が車庫になっている家があって、ガードレールを作ってし

まったら車庫に入れんがねっていうところは、ガードレールは作れない。そういうところは、ハードでダメならソフトでやろうということで、ソフトで言うと、今、警察を定年退職された方、60歳で定年退職されたとしたら、お体は元気じゃないですか。防犯の知識も持っているし、交通の知識も持っていらっしゃるんで、警察のOBの方を「スクールガード・リーダー」という形で採用させていただいて、いろいろ専門的な知識を教えていただいているんです。できるだけ、ハードとソフトで対策をさせていただいています。今、湯山小学校の通学路の危険箇所は7カ所あったんですが、こういった外側線で減速してくださいとか、減速マーク、一時停止線などを設置するなど、全て対策をしています。ここ危ないよ市長っていうところがあったら、遠慮なく言ってください。また、具体的な話をすると、赤い色をつけているところをちょっと皆さんにお見せできるかな。これですね。昨年度、「湯山小・中学校児童生徒をまもり育てる会」でご要望が出されたところをご紹介します。湯山中学校前の交差点、湯山中学校正門近くの交差点、ここは市道です。そしてこちら、湯の山ニュータウンにつながるカーブのところ、ここ危ないって言われていましたので、もう対策に入っています。こちら、湯山中学校正門近くの交差点は、赤いライン舗装とT字マークの引き直しを6月末までに終わらせます。そして、湯の山ニュータウンにつながるカーブですけども、この下り車線のカーブは、こういったカラー舗装と減速の文字入れを7月末までに行います。こうやって一つ一つ対処していきますが、市長まだまだここ残ってるよ、危ないよというところがあったら、どうぞおっしゃってください。今日、1時間半で、私たちは8時半でぱっと蜘蛛の子を散らすように帰るわけじゃありませんので、地図も持ってきています。都市整備部副部長が担当になります。どうぞ遠慮なく、ここ危ないよっていうところがあったら言ってください。

【男性】 朝夕がちょうどローソン前の信号、ラッシュなんですよ。それで、松山市内に抜ける奥道後の方から来る、あるいはずっと並んで、ちょうど警察のところへ入ってくるので、旧道にずっと。ちょうど湯山支所の前を通過。ローソン前で待つんですけども、ちょうどあそこも通学路なんです。なんか信号を上手に何かできんかなと思うんです。久米の方からも来るし、あそこは本当にすごいんですよ。なんかね、あの信号で、ちょっと高架でも何か作ってくれたらいいかなと思ったりもするんですけどね。以上、ちょっとそこら辺、また信号の方を考えていただければと思うんです。

【都市整備部副部長】 信号となると、どうしても愛媛県の警察の方の所管になります。なので、まず1回、警察の方と現地を見させていただいて、信号の設置がどうかということを確認させていただくと、あと、例えばそれがダメな場合、それ以外の何か安全な対策がないかということをもた検討させていただきたいと思います。

【市長】 実際に、もう遠慮なく言ってください。今までも説明したように、これ県道ですから、うちら知りませんなんか言いません。国のことであっても、松山河川国道事務所っていうのがありますから、国土交通省になるんですけど、松山の郡中線の沿線にあるんですけ

どね。国のことであっても、私たちは市民の皆さんからこういう声をいただいているので、国の道路であっても、県の道路でもであっても、遠慮なく言っていただけたらと思います。それと、実際に警察さんも協力してくれています。市民の方から、もうちょっとこの信号を長くしてもらえんやろうかっていうような話があったら、実際に伝えていきますし、県警さんも調べに来て、実際、こういう全体の流れの中で、これぐらいの秒数になってるんです、みたいなことを教えてもらえますので、実際に、県警さんにまた伝えたいと思います。今日はお子さんもおられるので、規制に関するものは、大体は警察なんだと覚えてください。例えば、40とか30とか、道路に書いてますけれども、あれは、40キロ以内で走りましょう、30キロ以内で走りましょうっていうのは、規制ですから、警察なんだなと思っていただけたらと思います。信号で、赤だったら止まりましょうっていうのは規制ですよ。ですから、これも警察ということになりますけれども、遠慮なく言っていただけたらと思います。

【男性】 湯山中学校の生徒です。去年くらいから、瀧見橋のところに、新しく感知式の信号ができたんですけど、自転車でそこを渡るときに、なかなか信号が青に変わらなくて、結構待つんですけど、どうしたらいいですか。

【都市整備部副部長】 先ほども申しましたように、信号となると警察の管轄になります。多分なんですが、押しボタン式とかもあって、そういった場合は、押したらつくとか、いろんな信号のいろんなやり方がありますので、私どもが1回、警察の方と一緒に現地を見させていただいて、その上で実際に通る方が便利になるような方法が何かないかなということをもた検討させていただきたいと思います。

【市長】 場所はどこって言われましたか。

【男性】 瀧見橋。

【市長】 瀧見橋、分かりますか。

【都市整備部副部長】 地図があるので、会が終わったらお聞きします。

【市長】 感知式。どなたか知ってる方がいたら教えてください。感知式って、車じゃないと感知しないんですかね。

【男性】 中学生の言った通り、長いんですよ。僕らもたまに行くんですけど、5分以上待つ場合がある。

【市長】 逆に偉いなと思ったのは、授業に遅れたらいかんけど、ちゃんと待っていてくれるんですね。ちゃんと確認させていただきます。

【男性】 先ほどの男性が言われた件と、中学生の方が言われた件が、何ていうか、どっちも取ろうとすると難しいと思います。結局、同じ交差点の感知式信号が、メインの末町交差点と連動をしているので、朝は時間を調節していて、国道とか県道の流れをよくするために車の青の時間を長くしています。だから、先ほどの男性が言われていた意見の方をどちらか

という採用していて、旧道にあんまり車が入ってこないような対策をしている。そのために感知式が長くなっている。そういう理由になるので、例えば、感知式を早く感知するようにすると、今度はメインの道路が渋滞をして、車が細い道をどんどん通るようになってくる。なので、両方を生かすというのは、正直難しいと思いますので、一応、補足です。良い案があれば進めていただけたらいいかなと思います。

【市長】 ありがとうございます。私の記憶ですけど、1回目のタウンミーティングの後だったかな。あそこの、よく話に出てくる末町のローソンのところの交差点、当時はまだ、市内に入っていく右折信号は無かったと思うんですよ。1回目のタウンミーティングの後に、警察に申しあげたら、右折信号を作ってくれたと記憶しています。ですので、県警さんも、できるだけことはやってくれると思いますので、また伝えたいと思います。

【女性】 湯山中学校の生徒です。自転車登校しているときに、エレベーターから少し降りたところに、時々、ペットボトルとか、ちょっと大きめのゴミが落ちていて、ひきそうになって、こけそうになることがあるので、そのようなゴミを少なくできたらいいなと思います。

【都市整備部副部長】 ご質問ありがとうございます。道路の清掃の話になるかなと思います。例えば、松山市道の場合、パトロールカーというのがあって、車でなるべくパトロールをして、ゴミとか、危ないものがあったら回収するようにしています。今の話は、あのエレベーターを降りてからローソンに行くまでの道のことですかね。そうなると県道になりますので、それについては愛媛県の方に、ゴミが落ちているときはなるべく拾ってきれいにするようにとお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いします。

【市長】 確かに分かります。ペットボトルとかって、自転車でひいたりしたらバランスを崩してこけるんじゃないかと思いますよね。よく分かります。

【男性】 私からは、もう少し将来的な話をちょっとお伺いしたいなと思います。今、人口減少がだいぶ進んできていますよね。それから逆に、インフラの老朽化というのも、いろんなところで話が出てきています。その辺の兼ね合いで、おそらく、どこの市もそうなんだけど、スマートシティというか、コンパクトシティっていう、そういう方向に、おそらく底流としては考えられているんじゃないかなと思います。また、ここへ来て、いろんな技術も進んできています。インフラといいますか、例えば電力、そういったインフラの地産地消といいますか、そういうふうなものから、かなり電力なんかも出てきたりとか、かなり賄えるようになってくるとも考えられます。将来的に、松山市、ここ湯山地区だけに限りませんが、周辺地区の考え方といいますか、今現在、どういうふうに考えているか、そここのところをちょっと教えていただきたい。これからおそらく、技術的には、例えば、自動運転などの影響も、ものすごく大きいと思います。中心市街地なんかも駐車場がいらなくなりますからね。だから、ずいぶん変わってくる。そういったことも踏まえて、どういうふうこれからやっていきたいのか、その辺をちょっと教えていただけたらと思います。

【都市整備部副部長】 自動運転技術が普及すると、運転のストレスも減り、移動時間を有効に使えるなど、利便性が大きく向上すると考えています。松山市では、公共交通の近くに、住む場所と、スーパーや病院など、生活に必要な施設を誘導して、車がなくても生活できる「歩いて暮らせるまちづくり」を進めています。また、中心市街地や、その周辺地域でも、拠点となる駅の周りに、住む場所や施設などを誘導する「コンパクト・プラス・ネットワーク」、ちょっと分かりにくいかもしれませんが、そういったまちづくりに取り組んでいます。これからも、なるべくコンパクトで、質の高い、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えています。

【男性】 具体的なイメージ図などがあれば分かりやすいと思います。

【市長】 そうですね。今、松山市の第7次総合計画を出したのですが、今回、イラストをできるだけ用いたので、概略版のハンドブックとかに、そういうイメージ図があったかと思っています。先ほど、副部長が申し上げたように、マイナンバーカードのこととも関連するんですけど、私はコンタクトレンズなので、3カ月に1回は眼科に行かないといけないんです。そこで、マイナンバーカードで受付できます、と書いていたので、マイナンバーカードで受付やってみようと思って、さあどんなになるのかなと思って、置いたら、もうあっという間でしたね。やっぱりこういう便利な新しい技術を使って、松山市では市民の皆さんですけど、国では国民の生活を、便利に、快適につけていく方向では進めていくんだと思います。松山市の特性はコンパクト、お城を中心にできている城下町、コンパクトなまちですから、関東平野みたいに、ずっとどこまでも広い土地、とはまた違いますよね。長崎や呉みたいに、ものすごく坂の多いまちだったら、またまちづくりは違うと思うんですけど、やっぱりコンパクト、そして、ネットワークっていうのを大事にしながら、松山市のまちづくりをやりたいと思っています。

広報タイム①「家具転倒防止対策の必要性」

【男性】 先ほどの話の中で、自助・共助ということがありましたよね。地震が来て、災害にあわないためには、家具類を固定せよ、ということなんですけれども、それより先に、やっぱり自分の身を守りたいですから、家の中で一番安全かなと思われるところは、玄関。玄関が一番、物を置いていないでしょう。だから、あそこが一番安全だという話を聞いたことがあるんですが、いかがでしょうか。

【危機管理課長】 先ほどおっしゃられたように、今の映像を見ていただいたら、玄関は比較的、安全な場所だと思います。家の構造にもよりますが、大きな柱があるところは安全かとは思いますが。ただ、揺れたときに、玄関に行けるのかと言われると、なかなか難しいと思います。寝ているときに地震があったときには、玄関に行く前にもう揺れてますから、ぜひとも家具固定をしていただければと思います。

【男性】 先ほど、自助のお話がありましたが、私はベッドのすぐ横に、ヘルメットと靴はいつも置いています。というのは、見守りも行かないといけないということで、自分が怪我したらだめなので、常にヘルメットと靴は置いております。以上です。

【市長】 私も靴は置いていて、ヘルメットもそばにあります。本当、裸足では歩けないですから。靴を備えておいていただけたらと思います。先ほどの広報タイムでお話をしましたけれども、私たちは皆さんの命を助けたいんです。本町6丁目に消防局がありますが、消防職員が、熱い火がきても大丈夫なごっつい服を着て、背中にボンベを背負って、ヘルメットをかぶって、一生懸命、周りを走るところとか、ご覧になったことがあるかと思います。皆さんを助けるために、日頃から鍛えているんですけど、やっぱり申し上げたように、大きい地震が起こってしまうと、広いエリアで起こってしまうと、皆さんを助けに行くまでに時間がかかってしまいますので、できるだけの備えをしていただけたらと思います。

【男性】 テーマが「暮らしの安全安心」ということだったので、先ほどの最初の方の話とはちょっと違うということで、それなら今、思いついたことがございまして。私の勤めているところが、福祉事業もやっていまして、私はその仕事ではないんですが、いろいろミーティングをしたときに、その地域の介護施設、市内に何カ所かやっていまして、その地域の方、自治会とか町内会とかあると思うんですけど、全くその話が出てこないの、総務に聞いたら、町内会費も払ってなさそうで、コミュニケーションが取れてないのかなと。先ほどの共助ということになりますと、この溝辺地区にも大きな福祉施設があって、逆に言ったら、もしかしたら避難して助けてもらう立場になるかもしれません。建物がしっかりしていますからね。そこに広い駐車場もあるし、行政の方から支援物資が届いたときなんかには拠点になるかもしれません、想像ですけど。私は自治会の役員をしておりますので、秋祭りのときに、福祉施設の駐車場を借りてイベントを開かせていただいたりしていまして、多少コミュニケーションはとれているのですが、組織と組織とのコミュニケーションではないですよ。そこらあたり、こういう福祉の充実というところでしたら、民間の介護事業者は、松山市の各地に施設が点在している。防災のことは、コミュニケーションが本当に取れているのかな、というところが怪しいので。ちょうど愛媛ジャーナルを見ていましたら、3月号で市長の記事がたくさんあって、その中で、今年か去年、何かそういう会を立ち上げたというような、松山市全体で、というような記事ありました。その中で、各地域に広がる介護事業者とのコミュニケーションというか、町内会とか自治会とか公民館とか。だから、うちの町内会で、うちの近くにある介護施設で、どんなおじいちゃんおばあちゃんが、何人住んでいるかは存じません。町内会費を集めに行っても、組入りはお断りされるので。そういうことでは、いざとなったときに、何も手も足も出ない状態になる。熊本でも災害があって、介護施設が流されて、たくさん高齢者の方が亡くなったという事例もあります。他県のこととか、他市のことも参考にさせていただいて、そういうのも充実させてもらったらなと思いますし、ある程度、市の方から強制的に、地域の方とコミュニケーション取りなさいよっ

て言ってもらえるのも一つかなと思ったりもします。

【危機管理課長】 高齢者や介護の施設などでは、災害時の役割分担や避難経路などの計画をつくっています。この計画は、職員や入居者さんが見やすい場所に掲示し、避難訓練をしたり、防災教育で知識を深めたりしています。松山市も、計画が適切につくられているか、定期的に訓練は行われているかなど、チェックや助言をしています。東日本大震災や能登半島地震では、行政が施設入居者の避難先を調整しました。能登半島地震では、高齢者の感染症など、健康リスクを考えたダンボールベッドや災害用テント、医療スタッフ常駐の避難所もありました。松山市では、災害時に配慮が必要な方の情報を、個人情報になるんですが、民生児童委員や自主防災組織などと共有して、地域で助け合う仕組みをつくっています。今後も、地域の防災訓練などを通して、福祉施設や行政、地域のつながりを深めていきたいと考えています。

【市長】 ニュースなどで皆さんも見られたことがあるかと思いますが、平成30年の7月豪雨のときだったですかね。岡山県でかなり水が上がって、病院だったか、高齢者施設だったか、そういうところもかなり水が上がったみたいなニュースの報道を見られたかと思います。もちろん国も分かっていますので、そういう福祉避難所といいたいでしょうか、高齢者施設などでは、しっかりとした計画を立てなさいという流れにはなっています。先ほど申し上げたように、松山市の役割としては、計画がちゃんと適切につくられていますか、というチェックとか助言、また、定期的に訓練は行われていますか、というチェックとか助言をするのが役割になっています。ですので、福祉施設は福祉施設、高齢者施設は高齢者施設で、まさに弱者になりますから、そういった方々が、災害が起こったときに、何もできずでした、ということにならないように、きちっと、それぞれ福祉施設はこういうことをやらなくちゃいけない、市としてはこういうことをやらなくちゃいけない、という役割分担の中、進めていきます。

【女性】 湯山小学校の児童です。湯山地区は、私が生まれてから1回も避難訓練がないので、お年寄りとか小さい子どもたちのためにも、避難訓練をしてほしいです。

【危機管理課長】 小学校で避難訓練はしたことないかな。

【女性】 小学校ではある。

【危機管理課長】 自主防災組織というのがありまして、湯山地区には19の自主防災組織があるかと思います。まとめているのが湯山地区自主防災組織連合会になります。湯山地区では、毎年5月に防災訓練をしています。おそらく、そのときに自宅から避難場所への避難訓練などはしているんだろうとは思いますが。各地区、いわゆる連合会ではなく、各地区の防災訓練でも、避難訓練とか、消火訓練をしていると思うんですけども、訓練をするよというご案内が届いていないのかなという気はします。自主防災会の方では、間違いなく訓練はされていると思うので、皆さんに情報を届けられるように、また自主防災組織などと連携して、検討していきたいと考えます。

【市長】 避難訓練のことを意識してもらってありがとうございます。皆が意識することで、松山市の防災力ってすごく高まるので、とてもいいことだと思います。これからまた、防災に関心を持ってください。

【男性】 湯山小学校の児童です。公園の時計の時間がずれていて、本当の時間が分からなくて、約束を守れないということがよくあるんですけど。

【市長】 すぐチェックします。どこの公園か分かりますか。

【男性】 森林公園っていうこと、中央公園。

【市長】 その2カ所で大丈夫かな。

【都市整備部副部長】 先ほどの森林公園、中央公園というのは、湯の山にある公園ですね。

【男性】 森林公園じゃなくて、東第1公園。

【都市整備部副部長】 今日が金曜日なので、週明け早々、時計を全部必ずチェックをさせていただいて、時間がずれているところがあれば、必ず直すように手配をしたいと思います。

【市長】 遠慮なく言ってもらったと思います。本当に遠慮なく言ってもらったと思います。言ってもらったら、改善していけるので。ありがとうございます。

【男性】 先ほどの南海トラフの映像を見て、ふと思ったんですけど。今、湯山でも、空き家とか、湯山以外でも、多分いろいろあると思うんですけど。いざ地震が起こった場合に、空き家が崩れて、隣の家に被害があるとか、そういうことが起こる可能性が出てくると思うんですよ。そういう空き家チェックとか、これからそういう空き家を、例えば、それを壊して、更地にして、そうしたら、被害が少しでも収まる、軽減できるんじゃないかなと思うんですけど、そういう何か、松山市として活動していることは何かあるんですか。

【都市整備部副部長】 松山市では、適切に管理されていない空き家の情報提供には、必ず現場に行って、調査を行っています。その結果、生活環境に悪影響があれば、所有者の方に助言や指導等の文書を送らせていただいています。その後も、もし所有者の方が適切に維持管理をしないままであって、例えば、家が倒れる恐れ等があった場合には、さらに強い対応を今はさせていただいています。湯山地区では、所有者の方に文書などで助言や指導を行った結果、空き家の維持管理が改善された事例が5件ほどあります。また、平成30年度から危険な空き家の解体費用の支援も始めていまして、これまで多くの方に使っていただいています。また、令和3年2月からは、インターネットを通じて、空き家を使いたい人と所有者をマッチングする空き家バンクも行っていますので、そういった形で適切に対応していきたいと思っています。

【市長】 手元に数字があります。老朽危険空き家。ちょっとかたい言葉でごめんなさい。老朽危険空き家の除却補助というのがありますが、解体費用の5分の4かつ上限80万円。令和6年度から、島しょ部は、解体業者さんが行くのに、ちょっと時間がかかったり、お金がかかったりしますから、上限120万円までにしていきます。できるだけことはして

います。ちょっとこれ危ないなとか、そういうことがありましたら、言っていただいたらと思います。確かに、直接、住民の方同士で言っちゃうと、トラブルになるみたいなこともありますので、市の方に、遠慮なく言っていただいたらと思います。

【男性】 実際、松山市の空き家って、何%くらいになるんですか。

【市長】 数字お答えできますか。分からないですかね。ちょっと私が覚えているのは、松山市の中野町だったかな。済美高校の野球部のグラウンドが近いところだったと思うんですけど、行政代執行しました。もうどうしても退いていただけないので、本当に危険だということで、行政の方が、「だい」は代理の「代」ですけど、代わりに行うっていう、行政代執行というのをさせていただいたことがあります。もうこれはちょっと危険だと、なかなか応じていただけないような場合は、そういった強い措置を取るように今はなっています。

【男性】 湯山小学校の児童です。いつも朝、登校しているときに、末町のローソン前の交差点、あそこを赤信号で通る人とか、よそ見をして、青信号になっても、しばらくしてから気づいて渡ったりしている人をよく見かけるので、そのときに危ないなって思ったりするんですけど、対策とかはありますか。

【都市整備部副部長】 地区の中に、例えば、交通指導員っていう方がおられたりします。そういった方が、お子さんとか高齢者の方の、交通の安全に対しての啓発活動を行っているので、今度、地区の方に1回ご相談させていただいて、そういったことができるかどうか、また検討したいと考えております。

【市長】 末町のローソンのところ、皆さんの湯山地区は、東署管轄ですか。東署ですね。警察さんと話していたら、今は見せる警備を主眼に置いてらっしゃるみたいです。この間、春の交通安全運動のときに、味酒小学校の入学式で、白バイを2台、味酒小学校の正門前に停めて、春の交通安全運動ですよ、子どもたちが入学式ですよ、ちっちゃい1年生さんたちが来るようになりましたよって、見せる警備をだいぶされるようになっているんですね。どうでしょう、これは警察さんがご判断されるものですから、お約束はできないんですけど、末町のローソンの交差点のところに、警察さんが立っているというようなことは、今まではあまりなかったですかね。警察さんでも、いろいろ件数とかは把握されていると思うんですけど。年度替わりになったら、東署の署長さんとか、西署の署長さんとか、南署の署長さんとか、来てくださるので、交通部長さんとかも来られるので、そういうときに、こないだ、湯山でタウンミーティングをして、あそこの交差点のことが、やっぱりよく話に出たので、ちょっとまた見てもらえませんか、みたいなお話は、私の方からもさせていただこうかと思っています。

広報タイム②「A E Dの使い方」

【男性】 先ほど南海トラフの件があって、私、家の世帯主として、ちょっと責任があんま

りないのかなと思ったんですけど、正直、うちの方で南海トラフが起きたときの家具の固定とか、あの辺の対策を何もしておりません。はっきり言って何もしておりません。南海トラフ、心配なんですけど、心の中では多分、そんなことは起きないだろうって思っているんですね。だから、実際に、南海トラフ心配だよねとかって家で話しながらも、結局、動いてなくて。家具固定とかも、今日も確かに紹介していただいたんですけど、動いてなくて。今日終わってから、明日ホームセンターに行って、防災グッズを買いに行くとか、見に行くかって言ったら、日々の生活もあって、経済的なお金のこととかもあって、ちょっとすぐに動くかと言われたら、動かないような気がするんですけど。おそらく、そういう人ってたくさんいて、自分のことだからとは思うんですけど、どこか心の中で、80%とか言われても、起きないだろうという心があって、正直、自分もそうで。多分、そういう人って、私の思うところでは結構たくさんおられて。そういうとき、実際に本当に起きてしまって、多数死んでしまって大変なことになってしまう。やっぱり市としても、たくさんの人が亡くなられて、それを対応するのが一番大変だと思います。ですので、実際に災害が起きてしまって、たくさんの人が亡くなってしまったりすると、その対応が大変になってくるので、やっぱり起きたときに人が死なないように、助かるように、やっぱり家具固定はすごく大切だと今日思いましたけど、そこまで思っても、明日ホームセンター行くかといったら、行かない。それで、どうしてほしいかという、やっぱり、その程度の意識なので、例えば、市として先ほどの防災グッズ、今日紹介した理由としては、こんなグッズがありますよ、ホームセンターに行って買ってくださいねっていうように思えるので、そうではなくて、市の方から防災グッズ、家具固定のグッズを全世帯に配布するとか。安倍総理が全国民に対してマスクを配布していましたが、全国に配布されて、これは大変なんだという意識が全国民に生まれて購入するとか、そういうことがあったので、いろんな紹介をしてはくださったんですけど、どうにか先ほどの防災グッズを全世帯に、財政的に大変だと思うんですけど、そうしたら、これはもう本当に南海トラフは差し迫っているんだというふうに、配布されたら、皆さんも意識が変わると思います。今日聞いた私ですら、明日ホームセンター行くか、やっぱり行かないだろうなと思うので、ぜひちょっと考えてみてほしいと思います。

【市長】 人のお気持ちは様々だと思います。あんまりバサッと言うといけないと思います。既につけているご家庭もありますよね。例えば、50万人、市民の方がいらっしゃって、計算しやすく、千円だとするじゃないですか。50万人かける千円で、かなりの金額が要りますよね。皆さんのところにお配りして、送る費用もかかりますよね。送ったものの、うちはもうつけてるから、なんで無駄なものを送ってきたのってなりますよね。それは無駄な出費になります。税金でお仕事をさせていただいているので、それはやっぱりできないですよ。議会の皆さんからも、これは無駄な出費ですよ、何でこんなこと松山市はしたんですかっていうことになります。もう既につけていらっしゃる方もいますので、やはり皆さんで購入いただいて、つけていくっていうことが大事なことはないかなと思いますし、公で全てできるわけではないんです。やっぱり皆さんに備えていただくことが大事。例えば、水と

か食料とかの備蓄物資を、全部、市で備えることはできません。できるだけことはやりませんが。皆さんが、水とか食料とか生活物資を用意していただいたら、並ばなくても手に入る、好みのものが手に入るんです。ですから、全部、行政でやってくださいっていうのはちょっと難しいかなと思います。ご理解ください。

【男性】 湯山小学校の児童です。AEDのことについてなんですけど、AEDが無い場合はどうしたらいいんですか。

【危機管理課長】 先ほどの広報タイムで、救急隊の救命士2人に説明してもらったと思うんですが、AEDはどこにでもあるわけではなくて、無いときも当然あると思うので、そのときは心臓マッサージです。呼吸意識がないときは、心臓マッサージをしてください。1人のときは周りの人に協力を求めてください。1人が心臓マッサージをする、1人が119番に電話をする。AEDが無くて、心臓マッサージはできますので、心臓マッサージをするだけでも救命率は上がります。先ほど、ここで見たと思います。それを友達みんなに教えてあげてください。

【市長】 お子さん頼もしいですね。

【男性】 湯山小学校の児童です。さっきの方に付け足して、近くに無い場合、公園にAEDを1台ずつ設置するみたいなことをしたら、AEDを使って救命率が上がるんじゃないかと思います。

【市長】 今、公園は300カ所ぐらいでしたかね。私が就任させていただいてから、ちょっと記憶の中でしゃべりますが、小学校や中学校には、AEDを増やしてきてるんですよ。元々は、職員室とか、運動しますから体育館の近いところにAEDを1台置いてたんですけど、プールの授業とかもありますよね。倒れたときにAEDを置いてるところまで走って行って持ってくるのが大変だろうから、できるだけ2台、3台に増やしていこうということで、増やしてきたかと思います。AEDもまあ金額するんですよ。ちょっと悩ましいのは、公園って、結構いたずらされるんです。トイレトペーパーを持って帰られたりとか、あってほしくないんですけど、放火されたりとか。公園管理協力会の方々が管理してくださっているんですけど、そんな中でも、ちょっといたずらされるんですね。なので、AEDを無人になる公園に置くっていうのは、ちょっと難しいのかなと思っています。せっかく皆さんの税金を使わせていただいて、AEDをセットしてても、悪さされた、使えなかったみたいなことになるといけないので、ある程度、目の届くコンビニに置かせてもらったりとか、工夫をしながらやっています。

【男性】 今、日本にAEDが240万台。大体50人に1台。これ以上増やすと、この部屋にいる人間だったら、3台ぐらいあるわけですね。冗談じゃないですよ。240万台っていったら、ものすごい数なんです。どこにあるかというと、パチンコ屋さんにあったり、映画館にあたり。大体、企業さんが100万個ぐらい持ってるんですよ。一般市民に届く

ようなところにあるのは、まあ140万台。小学校とかね。約240万台だから、かなりの数なんです。先進国の中ではNo.1です。

【女性】 湯山中学校の生徒です。「住み続けたい魅力あるまちへ」なんですけど、中学校1年生の冬に、エレベーター前の下の田んぼの所に、子どものイノシシが3匹出てきて、その後、春になってからずっと出てなかったんですけど、この前の1月ぐらいのときに、買い物に行こうと思ったら、エレベーターのちょっと上がった所から、少し大きくなったイノシシが、3匹ぐらい道路を駆けて行って、また2月ぐらいに塾に行こうと思って車に乗って、向こうの蕎麦屋のちょっと上、もっと上の方から降りてきたんですけど、そうしたらまた、同じようなイノシシが3匹ぐらい道路を2日間ぐらいかけて移動していて、だんだん自分の住んでるところに近づいてきてて、ちょっと怖いなって思うんですけど。

【市長】 これは私の方から。時間のこともありますから。今日、冒頭でお話したように、狩猟免許を持った方とも、猟友会さんとも連携しながら、できるだけ少なくするようにしています。気をつけてほしいのが、以前、他の地区でのタウンミーティングで、「市長、畑仕事しよるときにイノシシが出てくるんやけど、わしクワ持っとるけん、やっつけてええんかな」って言われる方がいたんです。皆さん、イノシシは結構、走るの速いので、人間が走るより、時速が早かったと思います。それと、子どもがおったら親が近くにいる可能性があるので、「ウリ坊かわいいな」と思って近づいていったりしたら、親が「何で私の子どもに悪さしてんのよ」って出てくる可能性があるので、イノシシと出会ったら、刺激しないようにできるだけ距離をとっていただいたと思います。それと、イノシシの牙って、興奮したら、こうやって出てくるんですよ。これは私、南海放送時代に、南予の取材をしているときに教えてもらったんですけど、イノシシは興奮したら牙が出てきて、その牙を紙に当てると、スパッと切れるんです。ナイフ状になっていますので、ちょうどイノシシの高さからすると、皆さんの太ももぐらいの高さにくるので、太ももは大事な血管があります。とても危険ですので、イノシシが出た場合は、戦ったりしないで、距離をあけていただきたいと思います。

【市長】 私の方からお知らせをさせていただいたと思います。かねてよりだったんですが、皆さんがよく知っている湯山公民館と湯山支所です。湯山公民館と湯山支所、建物の裏が急な斜面になっていまして、建物が古くて駐車場も4台しか置けません。平成28年に、地域の代表の方から移転の要望を受けていました。その後、地域の皆さんと一緒に、移転できそうな場所をあたっていましたが、適した土地が見つからず、めどが立たない状況でした。でも、これで諦めるんじゃないくて、松山市では地域の皆さんとのやり取りを続けまして、昨年の1月に適した土地が見つかりました。今、所有者や地域の方々と協議を進めて、令和8年度の購入を目指しています。それから移転予定先の建物を壊したり、土地を整備したり、また、駐車場を整備するなど、時間が必要なんですけど、引き続き、地域の皆さんと意見交換しながら、公民館と支所の複合施設という形でオープンできるように、しっかりと進めてい

きたいと思っていますので、ちょっとお時間いただきますけれども、きちっと着実に進めていきたいと思っています。また、2月に町内会に文書で回覧をさせていただいたかと思いますが、岩堰橋、通称「赤橋」が、国の方針に基づいて5年に1回、橋やトンネルを点検しているんですが、令和6年度の点検で、橋を支えているケーブルや橋げたに不具合が見られました。今年2月から、ご迷惑をおかけしますが、通行止めになっています。今、松山市は、橋のケーブルを取り替える準備を進めていまして、今年度は測量や設計などを行う予定です。赤橋は、実は大正13年に架けられてまして、100年以上経過しています。工事の許可を取るには、愛媛県に詳細な図面の提出が必要なんですけど、100年以上経っているので、もう当時の資料がほとんど無いんです。ですので、まず、測量から始めなければいけないという状況でございます。いい加減な工事をするわけにはいきませんので、2月から通行止めということで、地域の皆さんにはご迷惑をおかけしていますけれども、工事の進み具合、松山市のホームページや、町内会の回覧などでお知らせをしてみたいと思いますので、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。工事2件についてお知らせをさせていただきました。時間がまいりました。今日、本当に、お子さんから大人の方まで、いろんな意見をいただけて良かったと思います。毎回言うことなんですけど、私たちは市役所です。市民の皆さんの役に立つところで、市役所じゃなきゃいけないと思っていますので、どうぞ、今日みたいに、市長、公園の時計がずれてますよ、みたいなことでもいいんです。改善していくことに意味があると思います。どうせ市役所に言ったって変わらない、ではなくて、遠慮なく、いろんなこと言っていただいたらと思いますので、また重ねてお願いいたします。時間もまいりました。今日は意見交換させていただき、長時間、本当にありがとうございました。

—了—